



ハタラクヒト *ペディア 8

<中村智氏>

田中永子

はじめに

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだろうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

こだわりあり！・・・マニアでおちゃめな社長さん 中村 智 氏

第8回 ご登場いただくのは、
日進精機株式会社代表取締役でいらっしゃる 中村智さん です。

中村さんは、刈谷市商工会議所にも在籍
日進精機株式会社では、おもに自動車部品の製造をなさっています。

中村 智 氏



日進精機株式会社

おもに自動車部品の製造をしており、
経営理念は 「お客様に喜ばれる製品の提供により、従業員の幸せと地域社会への貢献をはかる」。

趣味：ゴルフ、食事、お酒、旅行、ドライブ

好きな本：「小説 上杉鷹山」 「The Goal」

好きな音楽：レゲエ、R&B。

連絡先：日進精機株式会社

電話番号：0566-21-1157

URL：<http://www.nissinseiki.jp>

メール：satoshi@nissinseiki.com

◆会社に来てくれた 波長のあう人たち

中村智さん（以下、敬称略）：刈谷で商売やってると、どうしても大手に行っちゃう。でも、今年、新卒でひとり入ってくれたし、来年も女性で入ってくれるって。その女性の方はね、面接したんだけどね。「すごくいい社長さんで、この人の下で働けるならいい」って言うてくれた（笑）。

田中： おー（拍手）。

中村： まだ19歳の人だよ。今度短大卒で。女性はね、そんなに長く勤めなくてもいいけど、男の場合来てくれるっていうのはありがたい。でもね、ちょっと個性的な人が来るね。

田中： へえ。

中村： もう4年、5年くらいの子がいるんだけど、その子はね、ちょっとおとなしめではあるんだけど、いい人でね、たぶん、そのうち俺の右腕になってやってくれる人になるだろうと……こんな話でいいのかな（笑）？

田中： ええ。もう自由にしゃべってください（笑）。

中村： この4月に入った人はね、おもしろくてね、すごいマニアックなんだわ。こだわり持っていてね。工業高校出て、工業大学行って、うちらみたいなところにはぴったりなんだけど。だから、その子が、なかなか就職が決まらなくて、どうしてうちに来たのか？って思うと、すごく不安になっちゃうんだけど……でも、もしかしたら、すごくいい人になるんじゃないかなあ と期待してる。

田中： なんか、けっこう好きそうですね。その人のこと（笑）。

中村： そう（笑）。あのね、マニアックちゅうのがやっぱり好きでね（笑）。メカだとか、機械だとか。その人も車が好きで。そういうところでね、たぶん。

田中： 波長が。

中村： そう、波長が合っちゃった。

田中： じゃあ、面接でいらした時点で、ピーンって来たって感じですか？

中村： あ、そこまではピンとは来なかった。

田中： だんだん見えて来た感じ？ それで、さっきの方は、最初にご紹介だったんですか？

中村： 今度の4月に採る人を、大学の方に募集をお願いに行ったら、「今度のもいいんですけど、まだ決まっていない人がいるんですよ」 って、紹介してもらってね。

田中： うん。

中村： 正直、あんまり就職活動もせずにね、将来も考えずに、ぼけっとのんびりしてる人だったらいやかな と思ってたんだけど。 話を聞いてるとね、おもしろいんだわ。

田中： どんな（笑）？

中村： マニアックで。 ふるーい車を買ってぴかぴかにするのが趣味。

田中： へー。

中村： そういうのが趣味らしくて、まだ見せてもらってないんだけど。 あとね、今ほとんどが電子書籍になってきてるでしょ？

田中： はい。

中村： 新しい本とかは最初からデータ化されてるけど、昔の本は紙でしかないから、そいつを開いて写真撮ってファイルしてっていうのを、今まで人がしてたんだけど、それを全部機械でやろうと、学生時代開発してたって。

田中： うん。

中村： 「あー、おもしろいなー。 うちにぴったりだなー」 って思って。 話を聞いてて、すごくよくなっちゃって、決めてた。

田中： 笑 よかったですね。

中村： 今まで現場にいて、7月1日から営業に入ってるね。

田中： いろんな部署に。

中村： そう。 とにかくいろんなところで…… 幅広く知ってもらいたいってことで。 仕事の話とか全然してないんだけど。

..... ^^ つづく

◆お仕事いろいろと海外進出

田中： うん。 ちょっと仕事の、どういった内容っていうこととか（笑）。 教えていただいでいいですか？

中村： うん（笑）。 チョコ食べてから。

田中： マニアックっていうのも…… いろいろなツボってありますよね。

中村： うん。 アニメにマニアックだったら興味なかったけど、機械にだったから、すごく魅力的だったね。 えっと、仕事の内容はね、昔でいう 「トヨタ系」 の、トヨタさんの二次下請け。

田中： うん。

中村： トヨタさんのすぐ下っていうのは、大体大企業が多いんです。 うちでいうと、「アイシン精機」 さんなんだけど、そのアイシンさんの仕事をうちがもらってる。 今年がちょうど創業60周年で。

田中： すごい。

中村： 祖父が起業して、ぼくが一応4代目。 親父の弟が1回やってますんで。 3年9か月だけど。 仕事の内容は車の部品で、ブレーキ、オートマチックトランスミッション、ドアの部品とか作ってる。

田中： へえ。

中村： バブルの直前ぐらいが一番売り上げが多かったな。 その頃は国内も調子よくて、日本から海外に輸出してる時期があったんで、結構よかったんだけど。 バブルのおかげで売り上げが下がっちゃったのと、その頃を境に、海外、現地で調達するようになっちゃったんだよね。

田中： あー。

中村： だから、今その頃の4分の3くらいの売上になっちゃったんだけど。 人事もね、だいぶ減らしまして。 リーマンの時が120人位になっちゃったかな。 今ちょっと戻ってきたんだけど。 刈谷市で工場3か所やらせてもらってます。 国内の仕事の量が減ってきちゃってるってことで、2年位前から、工場を海外に出すってことを目的とした視察を何回かしてる。

田中： はい。

中村： ほとんど中国、東南アジアとか。最初は中国狙ってたんだけど、ちょっと商売しにくくなって思って、今は東南アジアの方を見ていてね。 まだ今のところ、うちの会社に余力があるので、今のうちに東南アジアとか進出しなくちゃいけないのかなってことで動いてる。 先週も東京まで、情報収集とかでセミナーを聞きに行ったりとかね、そんなことしてます。 ぼくのところの仕事がある程度減らずに残ってるのは、海外に持って行っても、ちょっとやりにくい仕事なのね。

田中： へえ。

中村： かなり精密で、簡単にマネできない仕事だから。 海外に持ってく理由のひとつに人件費の安さっていうのがあるんだけど。

田中： はい。 人件費ばかりにならないですもんね。

中村： そうそう。 うちの場合は、ひとりで10台くらいの機械をみれちゃうから、製品に対しての人件費が比較的少ない。 人間が組み付けるとか、シート縫い合わせるだとかだと（人件費が）かかるんだけど、うちはそういう意味で、あまりまだ海外でやろうって動きにならない業種なんでね。 まあ、助かってますわ。

田中： はい。

中村： 今日も田中さんが乗って来られた車のドア。

田中： ええ。

中村： ドア開けると、ボディ側についてるドアを引っかける、コの字に曲がってる部分あるでしょ？ あれ間違いなく、うちで作ってるやつ。

田中： おー。 書いとかなないと、名前。 「by 中村」って（笑）

中村： あははははは。 トヨタのね、たぶん95%以上はうちでね。

田中： すごいシェアですね。

中村： そう。 だから車1台で最低4枚以上売れる。 これはアイシン精機さんに納めてる。

田中： はい。

中村： ぼくらの業界も変わってきて、最近の仕事の系列っていうのもなくなって来てて。 さらに国内生産から海外での現地生産にシフトして行っちゃうと。 これに乗り遅れると大変なことになる。 既に乗り遅れてるのかも知れないけど、うちはまだ比較的売り上げも残っているし、今から2018年くらいに向かって、まだ増えて行くっていうお客さんからの情報ももらっているから。

田中： はい。

中村： やってる仕事の中身も様変わりはしてきてるんだけど、おかげさまで。 だから今のうちに、外に行っとかんといかんかって思って。

田中： それはさっきおっしゃった海外進出を考えていらっしゃるってこと？

中村： うん、そう。 海外もね、もうみんな出ちゃった後に行っても、仕事があっても値段が安くなっちゃったりするから、まだ出てないところに行きたい。 あんまり誰も出てないところ。

田中： う〜ん、開拓したい感じ？

中村： 開拓したい！で、そこに大企業が来た時に、こう。

田中： どっちかっていうと、紹介する側に。

中村： そうそうそう！

田中： いろいろ口聞いてあげちゃったり。

中村： そう。 いろいろ教えてあげたりとかさ。 そういう感じの立場にいと、やっぱり最初に出たところって、かなりの有利さがあるんだよね。 全然違う。

田中： ええ。

中村： カンボジアとかミャンマーとか見に行ったんだけどね。 カンボジアは、首都プノンペ

ン辺りはありだなとは思った。 で、ぼくが希望してたのはベトナムとの国境辺りだったんだけど、そこはね、日本人が住めるような環境じゃないんだよ。

病院もない、スーパーもない、洋服を売ってるようなところもない。 ちょっと飲みに行こうと思っても居酒屋みたいなところも当然ない。 あるのはカジノばかりで、金持ったやつらがベトナムから国境を渡ってカジノをやりに来る。 そのカジノのホテルだけはちょっと立派なレストランとかがあるんだけど、他は何にもない。 そんな何も無いところに、うちの従業員を住まわせられないんだよな。

田中： うん。

中村： 一社、日系企業の人に会ったんだけど、それは社長の息子さんがその寮で暮らしてる。 社長の息子だからね、それはもう使命だから、辞めるって言えないよね。

田中： たしかに。 逃げて帰れんもんね（笑）。

中村： そう（笑）。 だからやってられるんだけど。 うちとか従業員を行かして、「ここに住め」 っていうのは……。 よっぽど、「ぼくの環境って、あんまりよくないな」 って気付くのに2年くらいかかるような人じゃないと。

田中： あはははは。 え？ そっちですか？

中村： 笑

田中： 私、タフさかな？ って思ったんですけど。

中村： うん（笑）。 たぶん。 じゃないとやってられない。 それか、よっぽど日本が嫌いな人じゃないとね。

田中： へー、そうなんだ。 そこに忍耐力とかいうものではなく。

中村： じゃないじゃない（笑）。 たぶん、忍耐で片づけられないような状況なんだよ。 きっと狂って来ちゃうんじゃないかなと思ってね。 何にもなさ過ぎちゃって。

田中： あー。

中村： ゴルフ場もないし、パチンコ屋もない。 カジノはあるけど、借金まみれになっちゃう

かも知れんし。

田中： そういった感じで、少し違う配線の人じゃないと無理かなって（笑）？

中村： あはははは。 まあ、日本人がたくさんいて…… とかだといんだけど。

田中： 私の知り合いで、海外進出が珍しい、もうほんとずいぶん前に、そういう開拓に行った人がいますが、政治的なものとか、風習とか、ほんと大変だったって言ってましたから。

中村： 今だから、いっぱい日系企業が出てて情報がある。「アレに気をつけろ」とか、「こういうやり方で」というのがわかるんだけど、開拓は無理だよね。日本の常識が全く通用しないから、そんなところ行こうっていうのは、すごいね。

田中： でも、その経験が今すごく生きてるっていうか。 まあ、最初に地獄を見ちゃうと（笑）。

中村： 先に出るってね。

田中： 有利なんですよ。最新の情報が違うルートで入ってくるから。「最初はほんと大変なんだけど一度開拓できてしまえば」とっておっしゃってました。

中村： ほしいなあ。カンボジアかな。

田中： そっかあ。じゃあ今は「開拓先をどちらにもっていこうか？」っていうのを検討されてる感じなんですね。

中村： うん。東南アジアが一番濃いんだけど、リスクを考えるとね。リスクの少ないところを考えると、北米なんだよ。あそこはまだこれから人口も増えてくし、マーケットも広いし、ある程度政治的にも安定してるんでね。

田中： たしかに。

中村： 東南アジアはこれから人口も絶対に増えて行くし、産業も伸びるんだけど、いつ不条理な崩壊とかクーデターとかあるかわからんしね。

田中： そうですね。

中村：　そういうこと考えると、北米が一番リスクが少ないのかなと。　東南アジア、中国とか、ぼくらの業界も出てってるんだけど、北米も根強い人気。

田中：　へえ。

中村：　ただねえ、北米が嫌いなのに、2つ理由がある。　ひとつはね、行くのに飛行機で13時間くらいかかる。

田中：　遠い。

中村：　ビジネスクラスで乗って行ければいいんだけど、貧乏席だもんで（笑）。　寝れないしね。

田中：　エコノミー症候群もありますしね。

中村：　次に嫌いなのが、帰り15時間くらいかかるんだよね。　偏西風に逆らって来るものだから。　それがふたつめ。

田中：　へえ。

中村：　もうちょっと、ウケるかなって思ったんだけど（笑）。

田中：　笑

中村：　今月末もちょっと視察に行つてこようかなって思ってるんだけど、可能性として少ないかな。　顔がね。　顔が違うからね。

田中：　あー、親近感が湧かないとか？

中村：　そうそう。　そんなにでかなくてもって。　戦争でそんなに立ち向かって行った日本人ってすごいと思うわ。

田中：　笑

..... つづく ^^

◆上杉鷹山（うえすぎようざん）に学ぶ

中村： 最近ね 「上杉鷹山」 っていう人の本をね、読みたくなかったんだけど、読まされて。こんな分厚いの、700頁くらいあるの。今、経営塾みたいなのに行ってて、勧められて。

田中： 稲盛さんの？

中村： ううん、トヨタ系の人やってるやつで。最初読み始めたんだけど、本は滅多に読まないから途中でわからなくなっちゃう。で、3頁くらい前に戻って……なんてやっとなら50頁読むのに1週間くらいかかっちゃう。700頁、これ1か月で読み終わらんといかんんだけど、どう考えても無理なんだわ。

田中： あははは。

中村： で、こっそり、この人が監修したDVDがアマゾンで売ってたから、それ買って見てみたら、ほとんど同じ内容だった。

田中： よかったですねー。

中村： だぶんね、会で一番おれが内容をわかってると思う。2回も観たからね（笑）。一番詳しいと思うよ。

田中： 笑

中村： で、鷹山さんも米沢藩ってところで、ひと月の収入が5万両なんだけど、支出が12万両あるような超大赤字の藩で。そこに17歳で九州からやって来て、後々藩を任されて、立て直すっていう。

田中： へえ。

中村： 実際にあった話で、立て直すのに30年位かかったのかな。それをみてて思ったのが、今までのしきたりとかね、考え方……。つまり、米沢藩の藩士たちは、上杉謙信の末裔だから、役人たちがすごいプライドを持ってるわけよ。

田中： うん。

中村： その人たちをうまいこと使って、今までのしきたりとか考え方を一切排除して、ぜいたくな暮らしをなくして行くかということに力を尽くしている。 その頃の偉いさんは、自分とこにどれだけ給料を入れるか っていうことばかり考えていて、そのためにたくさんのコメを作らせた。 上杉鷹山は 「この米沢藩は、藩民のためにあるのだ」 ということを行ったんだよね。

田中： うん。

中村： よその藩から来て一番偉いさんになっちゃったんだけど、周りの人たちはよく反対して、彼を引きずり下ろそうとしていた。 でも、本人は、「ぼくを下ろせるのは、あんたらじゃなくて、税金を納めてる農民や商人だ」 ということを行った。

田中： ええ。

中村： すごいなあ と思った。 けど、よく考えたら、その人にそういう教えをした、「細井青洲」 という人がすごいなとぼくは思った。「国は藩主のものではなく、役人のものでもなく、藩民のためにあるんだ」 ということ、たぶん今だったら言えるんだろうけど、当時は言えなかったんだろうね。 それを行ったのはすごいと思う。 とにかく30年をかけて改革をして。

田中： ええ。

中村： 今ある、当たり前みたいにある生活。 扇風機が回ってるけど、扇風機が回とっちゃいかんて。 首振りじゃなくて、おれたちが順番に風に当たるようにやらないかん。 全く考え方を変えてね。

田中： うふふ。 私、やだな、それ（笑）。

中村： あはははは..... 小説なんだわ、実際あったことをだいたい脚色してると思うんだよね。 だけど、おもしろい。 ベースは史実をもとに作られてるから、あれは経営者にとっておもしろい話だなと。

田中： うん。

中村： 改革をするっていうことをね。 しきたりとか慣習をなくしてね、本当にあるべき姿を、反対している人がいても自分の志を信じてやってくのは、いいなあと。

田中： そういう大切さを認識した感じですか？

中村： そうだね！ うん。 元々、ぼくもそんなに、今までの常識だとかにとらわれずに、「変えて行こう」 って従業員たちに言ってたんだけど、やっぱり、「自分が変わらんと、変わらん」 と思ったね。 うん。 言うだけじゃね。

田中： ええ。

中村： こんなんでいいの？

田中： ええ（笑）。

中村： みんなどんな話してるんだろなあ。

田中： まあ、過去記事でもお読みいただければ（笑）。

..... ^^ つづく

◆ 直観

中村： ぼくね、案外物事を深く考えないから。 まず、記憶力がない。 非常に残念なことに乏しいんだわ。 特にお酒が入ると、何も覚えてないんだね。 いろんな仕事とかやっても、あんまり考えない。 直感だけで、わーとやっちゃう。 結局考えてない。

田中： うん。

中村： 自分で解決できると思っちゃっているんだよね、いろんなことを。 なんかトラブルになったとしても、解決できると思ってるから、行動してて、それがいいのか悪いのかわかんないけど、今んところ、それでうまくいってる。

田中： いろんなことを決断される時は、どういう決断のされ方をするんですか？

中村： あのね、昔おもしろかったのはね、すごく立派な先輩がおって。 困った時にね、「その人だったらどんな考えをするか？」 って思ってた。

田中： へえ。

中村： その人だったら、部下にどういう判断を下して、どう説明するのか？ 「その人だったら？」 って考えながらやってたけど。

田中： ええ。

中村： 今ね、決断するのもね、案外失敗は多いんだろうね、たぶん。 だけど、それをするための目的だとか、周りの利害関係だとかも考えてやってるんだけど、あんまり深く考えてないね、たぶん。

田中： 以前よりも考える時間が短くなった？

中村： うんとね、もう、考えてもね、あんまり結論変わらないって思ってたよね。 その時の直感で思ったことがたぶん、正しいんだと思うんだけどね（笑）。

田中： うん。

中村： もうひとつ、例えばね、社員から相談受けた時に、「これ、ちょっと考えとくわ」 だと社員も困っちゃうし、それを忘れちゃうこともあるじゃない。

田中： 止まっちゃいますもんね。

中村： だから、なるべくその場で判断して、いいのか悪いのか、直すところがあれば直すように。 そう心がけてる。 持ち越さないようにね。 それが何百万もかかるようなものだったりすれば、持ちかえったりするけど、そうじゃないものは、その場で結論出すように心がけてるね。

田中： なるほど。 決断というものは流れを止めないために。 ここで、「ちょっと待ってね」となると、一回そこで流れが止まる。 出来るだけ、その場その場で結論を出すことで、そうした循環しているプロジェクトなどの流れを止めないってことを優先されてるのかなと理解したんですが、合ってますか？

中村： あー。 そういう考え方も、あるのかなあ。 うん。 そうだよ、停滞させないためだよ。 考えたところでね、9割方変わらないんだよね。 残り1割失敗したとしても、9割が成功すれば、そっちの方がトータルで見ればいいんじゃないかなって。

田中： そういう考え方にスイッチされたきっかけのようなものって、何でしょう？

中村： きっかけはね、うちのお客さんのアイシン精機さんで、トヨタから来られた会長さんがいたの。 その人は、その場で結論を出すという頭の切れる方でね。 その人がアイシンさんに来て、そういう話をぼくたちにしてくれたことかな。 その人は立派だよ。 おそらく自分で出した結論が100%近く言えてたと思うんだけど。

田中： ええ。

中村： その人の話を聞いて、早く言う事がいいなって。 結局は、自分もいくつも仕事抱えてるとね、こっちからあっちの仕事に頭を切り替えるのに時間がかかる。 さっき言ったように記憶力がないから 「こっちの仕事ってなんだったかなあ。 これとあれと、あと何があったかなあ」 って考えてると、この仕事の結論出すのに、ものすごい時間がかかっちゃう。 報告を受けているんな話を聞きながら、その場で結論出した方が早いし、間違いのない感じ。 それでそうなっちゃったんだろうな。

田中： うん。

中村： 親父がすごい慎重派で、石橋を叩いても渡らない性格だからね。 だから、なかなか結論出してくれんもんで、それでぼくもちょっと仕事がやりにくかったというところもあったもんだからね。 反面教師じゃないけど、そういう苦勞もしてるからさ。 だから、早めに結論出し

てあげたいという想いがあつたところに、アイシンの会長さんがそう言ってみえたからね、そうしよう。

田中： ええ。

中村： 結果、絶対よかったと思います。

田中： 140人の社員さんの生活を支えていくという重責を担われているわけだから、軽々しい決断ではないというのは、重々伝わって来ましたが..... それでも、「直感」というところがおもしろいなと思いますね。

中村： うん。

田中： それって、閃くわけですか？

中村： うん！ そうだね。 たぶんね、頭の中がフル回転してるんだろうね。 自分では気づいていないと思うんだけど。 あとは..... そう、「経験」 だよな、やっぱりね。 だいたい今までトラブルを起こしたヤツってのは、覚えてるんだよね。 記憶力がない中でも。

成功したことはすぐ忘れちゃうんだけど、失敗してね、「こりゃいかんな」 って思ったことは、だいたい覚えてるんだよね。 そうすると、それに当てはまる、失敗に結びつかないかって、ぱぱって考えて問題なければ、「いいよ」 ってなる。

田中： うーん。

..... つづく ^^

◆人に任せる部分と、自分の強み

中村： だから、「このままやると、こういう失敗になるよ。トラブルに繋がるよ」 って話をするかな。 そういう気がついたことについては修正させる。

田中： ええ。

中村： こうねえ、結構細かい性格なんだわ、ほんとは。 数字がひとつ違っていたりね、ちょっと線がズレていたり、「～します」 の後に 「。（読点）」 がついていないとか…… どうしようもないところが気になるんだよね。

田中： 手を抜いちゃいけないところと、そうじゃないところの乖離があるんでしょうね。

中村： あのね、自分に自信のあるところは、結構細かい。

田中： あー。

中村： 昔、ずっとぼくがプレゼンの資料を作ってたんだよね。 お客さんからも高評価いただけるような資料だったから、今それを任せると、さっき言ったようなところが気になっちゃうんだなあ。 けどね、ぼくが得意じゃないところは、だいたい任せちゃう部分が多いね。

田中： うん。

中村： 製造のことに関しては、アイデアは出すんだけど、それをどう具現化するのは他人任せになっちゃう。「今まではこうやって作ってきたけど、今度、こういうやり方だったら、どうかね？」 って言うだけで、「ほんとに今度試してみよう」 とか、そういう部分は全然細かい。

田中： へえ。

中村： ずっと営業畑でやってたから、お客さんに対する名刺の渡し方とか、言葉つかいだとか、気の回し方なんかは気になるけど、従業員に対しては、なるべくその人を尊重するように、自分で学んで。 ぼくも営業の先輩がいたけど、ほとんど教えてもらってなくて、自分で学んで来てるから、「みんなやれるもんだ」と。「自分で学べ」ということで、あんまり細かいことは言わないけれど、対お客さんのことに関してだけは気になることは伝える。

田中： 営業でされてた時と今の社長業にスイッチされた時って？

中村： うんとねえ。 そうだね、一番変わったのはね、ぼくに部下ができた時。 で、一応営業だったんだけど、会社を継ぐっていうのは周りも知ってるし、ただの営業ではないというのは会社の人間もお客さんもそう思ってるし。

田中： ええ。

中村： 部下が入った時に、営業以外の人間とすごい仕事をするようになってね。 30代前半くらいかな。 その時にいろんなもんを手広く見るようになった。 営業だけじゃなく、その前から意識はあったんだけど…… その時、変わったね。

田中： ええ。

中村： ぼくは38歳で親父から、社長という名前で。 別に社長になったからといって仕事の内容が変わったわけじゃないしね。

田中： うん。

中村： だから、やることはほとんど変わらずに、名前だけ変わって責任だけが重くなって、借金のための判子いっぱい押して。「うちの会社、こんなに借金があるんだな」 って思った。

田中： ええ。

中村： だから、ほんと今やってくれてる営業の子は、すごくよくやってくれてるからね、ありがたいていうか、彼のおかげで自分が社長らしいことをやれてる。 その子は1を言えば10をわかってくれるような人なんでね、お客さんへの対応もいいしね。

田中： ええ。

中村： お客さんとは営業だけじゃなくて、うちの会社に来るたびに会う人だとか、伺う時にいろんな従業員を連れてったりするもんだから、そういう時、うちのマナーはなっとらんとか、そういうとこを気にしちゃうね。

田中： 自分の強み、わかっているとこって細かいところまで目が行き届いちゃいますよね。

中村： そう！ 「俺だったら、こうやってやる」 ってのが出ちゃうんだよね。 だから、「何でできないの」 ってなっちゃう。

田中： 笑

中村： でもね、会社でね、キレ気味で怒ったの、2回だけなんだわ。

田中： へえ。

中村： さっきの上杉鷹山じゃないけど、怒りたいのをぐっところえて。 怒りたいけど怒らないって言ってた。 それがいいのか悪いのか、わからないんだけど、結果はいい方向に行くって。 そう仕向ける。

田中： 2回は何に怒られたんですか？

中村： ひとりね、借金問題。 自分の給料に対して、払いきれないくらいの家を建てて、その後サラ金に手を出しちゃって、家計が火の車になっちゃった。 「退職金を前借りさせてくれ」 って言うことで。 「会社に相談すればなんとかなるだろう」 って、お金に対して考えが非常に甘かった。 それに対して怒ったね。

田中： うん。

中村： だから、仕事のことじゃない。 仕事上の怒りではなく、ゆくゆくはお金の問題も仕事に関係してくると思うけど、そんな人にお金を借りるというのを簡単に出来ると思っとる計画性のなさ、責任感のなさ、それに対して怒った。

田中： ええ。

中村： あと1回はね、それはまだ若い頃で仕事上のことで、偉いさんがいっぱい集まって、ひとつ問題があったと。 作っても作っても注文に対して生産が間に合っていない。 1時間に10個しかできないものを11個作りたいというわけね。

ぼくは入ってすぐくらいの頃だったんだけど、幹部の偉いさんが大勢集まった中、出た来た答が、「機械を買うしかない」という結論になったのね。 機械を買えば11個できるじゃないかと。 あまりにもね、子どもでもね、わかるような結論がそこで出たことに対して、ぼくは怒ったかな。 その時、課長くらいだったかなあ。

田中： 笑

中村： そうじゃなくて、「10台の機械で1時間に11個作れる工夫をなさいと。 みんなで集まってそんな結論しかでないじゃ、ダメじゃないか」 ってね。

田中： 「雁首そろえて何やっどる」 って（笑）

中村： 「そう、何やっどるんだ！」 って（笑）。 ということを行ったんだけど、誰も賛同してくれなかったね。 一番楽だもんね、機械買うのが。 お金だすのは会社側だし。 で、それからは怒らんくなった。

田中： うん。

..... つづく ^^

◆これからの組織

中村： だから、怒るんじゃなくて、結果が10台で11個できればいいんだから、そうなるように仕向けるようにしとるね。

田中： 与えられた環境での最善の結果を出すってことを、こう、心がけてらっしゃるのかなって思いましたが.....？

中村： どうなんだろうねえ。最近かなあ、ほんとにね、ほとんどぼくが結論出すことが多いんだけど、ぼくが死んじゃったり、出張でいない時みんなが動いてくれないと困るから、なるべく権限をね、委譲して部長判断でできることとか、そういうことを仕向けて行ってるんだけど、なかなかそれがね、部長が判断できなくて時間がかかっちゃうこともあるし。とにかく自分たちで考えて自分たちで結論が出せるような、そういう組織にして行きたいなと。

田中： うん。

中村： もちろん、ぼくはぼくで判断しなくちゃいけないこともあるんだけど。

田中： そうですね。

中村： あのね、楽にするには、それが一番いいんだよな。

田中： わかる気がします。

中村： ぼくの仕事と権限をどんどん下に渡すことがね（笑）。でも自分もいろいろ知ってたい。報告だけは受けるってことはするんだけど。

田中： ええ。

中村： だいぶさ、さっきから質問と違う答えがたくさん..... 質問をされても途中で忘れちゃう、記憶力ないからさ（笑）。

田中： あ、全然。大丈夫です（笑）。

中村： 大丈夫？（笑）。途中で、何を聞かれたことで、これしゃべってんのかなって思っちゃう。

田中： いいです、いいです（笑）。

中村： あんまり笑いが無いけど、今日大丈夫かなって（笑）。

田中： 全然OKっす。 笑いをとるためのネタじゃないんで（笑）。

中村： あ、そう？

田中： お仕事って考えたときに、私以前歯科衛生士で、チーフとかもやらせていただいていたんですけど。 急に前任が辞めてしまって、いきなりその役が回って来たことがありました。 女の子ばかり人数も10数人いて、その時にどうしたら仕事が円滑に回るかということをいつも考えていて、その結果、到達したのが、「私がいてもいなくても回る状況にするのが一番いいんだな」ってことでした。

中村： うんうん、うんうん。

田中： で、その時にやったのが、中村さんもおっしゃったように仕事を任せてしまうということでした。 ただ、最終的な責任は取る……というような。 ですので、組織の中のチーフの役割って何なんだろうって考えると、要は中間管理職なんですよ。

中村： うん。

田中： 下から出てきた意見を上に伝える、上から下りてきた指示を現場が回るように伝える役目。 ろ過装置みたいな。 上から落ちて来たものをそのまま流していたら、回っていかないことも多々あるので、無理だということは、無理だと伝えるテクニックも覚悟もいるし。 最終的にはチーフって仕事は、責任を取るだけなんだなって。

中村： 笑

田中： それに落ち着いたときに、すごくやりやすくなって。

中村： なるほどね。

田中： 上から落ちて来たものが医院の方針としてやらないといけないことであれば、現場でやってもらえない。 会社なり医院の方針には従わないといけない。 ただ、それに改善が必要であればそう伝える必要がある。 それを今度実際に現場でやってもらうためには、それができるように方法を示したり、あるいは改革などの働きかけをする必要もありますから、結局、調整

役なんだなって。

中村： そうだね。ほんとね、大事な位置づけだよ、そこね。

田中： それがわかったとき、やりやすくなった。

中村： 普通はプレッシャーを感じるけどね。能力があるから自信が持てると思うんだけど、うーん、そういうもんかなあ。自分に自信はあるの？

田中： いえ、自信はなかったです。もうできないから腹括るしかない（笑）。

中村： でも、何かあったら自分で責任とろうと。

田中： そう。丸投げは誰でもできますし。なので、やれることとやれないことはあるし、人それぞれの強みがあるので。私はご覧の通り、ぼーとしてるので、気がつかないことが多いんですけど、他の子たちの中に、とても目端が利く子がいたりして、回してくれるわけです。

中村： うん。

田中： 受付とか、診療室とかいろんな関係性も必要で、そこが断絶していると回らないので、円滑に行くように。院長からの要望が来た場合も、それを満たしつつ無理なく診療室が回るように調整する。大事なのは、要望なり意見という情報がちゃんと流れるパイプがあることかなって。すみません、なんか私がいろいろしゃべっちゃって……。

中村： いやいや。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

中村さんにもインタビュー後おつきあいいただきました。
まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

<いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思いますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つづ

きは中村さんのおこたえデス ^^

田中： あと、質問表とかあるんで、お願いします。

中村： いいよ。

田中： 月並みですが、小さい頃はどんなお子さんでしたか。

中村： 小さい頃のあだ名は、「きんきん猿」 って言われとった。 たぶんね、明るくて落ち着きがなかった。

奥さま： 小さい頃は、「わるだくみ」 って組に入ってたらしいですよ（笑）。

田中： あははは（笑）。

中村： 幼稚園が、暁星幼稚園だったんだけど、厳しい幼稚園で。

田中： ですね、あそこカトリック系ですよ。

中村： そこでいたずらばっかりやってて（笑）。 それで 「わるだくみ」 って。 きゃっきゃ、きゃっきゃ して落ち着きがなかった。

田中： いや、今もかなり屈託のない感じで（笑）。
では.....お好きな本を一冊選んでください。

中村： じゃあ、「小説 上杉鷹山」 で。

田中： いつも必ずする 「習慣」 がありますか。

中村： ないけど..... ないねー。

田中： なきゃ、いいです（笑）。

中村： あ、でもネット依存症かも。

田中： それ、習慣なんですか??

中村： 習慣じゃないか（笑）。

田中： 依存症は、習慣じゃないですよー（笑）。

今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか。

中村： やっぱり、リーマンショックだね。

田中： 会社にもかなりの影響があった出来事だったんですね。

中村： うん。 そうだね。 その時支えてくれたのが、同じような立場の業種のその時に社長さんだとか、次期社長さんだとか、そういう人たちとの情報交換がほんと助かったなあと。 仲良くしてて、よかったなって思いましたね。

田中： その時、大切にしていたことは何ですか。

中村： うんと、やっぱり家族とか従業員をいかに守るかってとこだね、そのときは。 仕事なくしちゃうとみんな食いつぱぐれちゃうんで。

田中： 3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか。

中村： ひとつめはね、ずっと健康でいたい。 ふたつめはね、何もしない時間がほしい。 最後は、毛根が復活してほしい。

田中・奥さま： 爆笑

中村： 最後の願って、普通ないよなあ。 ある？（奥さまに） もうさあ、ゴルフもしたしさ、おいしいものも食べたしさ。

奥さま： あとは子どもが幸せな結婚をしてほしい。

中村： あ、そうだね。 立派な婿を連れて来てほしい。

田中： 笑

中村： まさえさん、いいこと言うね。 じゃあ、最初に、家族の健康から（笑）。

田中： はい。 とってつけたみたいに 「家族の健康と」（笑）。

人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを観ていますか。

中村： あんまり考えてないね。 でも何かぼくに言ってきたりする、その人のほんとの目的を気にしちゃうね。 例えば、仕事上で長くつき合っていないかん人に関しては、「この人の真の目的は何だろう？」 ってことを。

田中： 目的.....。

中村： そう。 ぼくに接触してくる目的。 ぼくとつきあうことの目的。 その人にとって、自分の位置づけがどんなであるか？ 会う人全員は考えないけど、外注さんとかは、お金の絡みもあるし、この先つき合いが長くなるような人は気になる。

田中： 人として、これは譲れないっしょ?? っていうのがあるとしたら、何ですか。

中村： あー、裏切りはダメだね。

田中： RPG (ロールプレイングゲーム) はされますか。

中村： あー、します、します。

田中： RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか。

中村： 結構ね、慎重派なキャラクターを選ぶね。

田中： へー。

中村： RPGが嫌いなのは、あれさ、勝手に人の家に入って行って、引き出しとか開けるじゃんね。

田中： たしかに(笑)。 傍若無人に。 泥棒と一緒にすよね。

中村： そう！ 泥棒と一緒に。 あれが許せないから、俺、全然アイテムが貯まらない。

田中： それ、反映するところなんですか？(笑)。

中村： 笑

田中： ちなみに、その中で、あなたの役割 (キャラ) はなんですか。

中村： あ、勇者だね。 非科学的なものは信じないから、剣でやっつけば死ぬのは当たり前だけど、魔法でね、怪我が治るとか、人が死ぬとかイヤだね。

田中： 許せない（笑）。

中村： 許せないね。

田中： あはは。 おもしろい。
それはどんな冒険になるのでしょうか。

中村： これも、計画性のない冒険だね。 行ってみただけど、やることがない、みたいな感じ。

田中： じゃあ、先に計画を立てるとか。

中村： 立てない。 行き当たりばったり。 これはね、現実とは違うんだよね。 あのね、出張で行く時、初めて行くところとか、めちゃくちゃ調べる。

田中： へえ。

中村： その時の歴史だとか、起こった事件とか、建ってる建物とか、すげー調べる。

田中： じゃあ、PRGと全然違う。

中村： そう、全然違う！ 仮想空間だからだと思うよ。 そこに行っても歴史も何もないし。 たぶんそこに興味がない。 現実のものは楽しみだし、時間を有効に使いたいと思うから。

..... つづく ^^

田中： では、「攻め」と「守り」ご自身ではどちらだと思えますか。

中村： 守りだね。 冒険しないね。

田中： 今回、海外の方に目を向けてらっしゃるっていうのは？

中村： 攻めではない。

田中： これも、守り？

中村： 攻めだったら、もっと早い時期に行ってるよね。仕事が減って行くのを守るために、行きたくないけど、仕方なしに行く。

田中： 守りのための行動ということですか？

中村： そう。

田中： 聞くとムカッって来る言葉ってありますか。

中村： そうね、「昔と見た目が変わったね」 って言われると（笑）。 でも、まあ、ムカッて来ること、あんまりないからね。

田中： そんな感じですね。 近江八幡に行った時に初めてお会いして、「屈託のない感じの方だな」 って（笑）。 底が明るってというか。 ちゃんとしっかりしたものをお持ちなんだけど、深刻ではない、という感じがして、いい感じだなって思いました。

中村： 周りの人にイヤな思い、雰囲気を出したくないっていうか。 コンビニとか行っても、互いに気持ちよくなるような。「ありがとう」 って一言を言うだけでも違うしね。

田中： ええ。

中村： 知らず知らずのうちに、何かやってるんだろうね。 二度と行かないコンビニだとしても、普通にそういうことをしてるんだと思う。

田中： 何気ないときとか、ふとしたときに、その人となりや垣間見える気がしますね。 やっぱり日常の積み重ねなのかなって、思いますね。

中村： うん。 だから、言われてムカッって来ることはないね。

田中： さっき記憶力がないっておっしゃってらしたけど、いい感じでスルーできるっていうか。

中村： ほんとそうだと思う！ それがストレス溜まらない要因だと思うね。

田中： 何をしている時が一番楽しいと感じますか。

中村： えー。 何だろうなー。 そうだね.....おもしろいことを言ったときに、笑ってもらえると幸せと感ずるかも。 でも、運転も好きだな。 いろんなとき、幸せを感じてるんだろうな。 あ、「好きな食べ物は？」 って質問はない？

田中： そんなポピュラーな質問はないです。

中村： ぼく、それ聞かれたら 「ロキソニン」 って答えるんだわ。

田中： ロキソニン？？ なんで？？ (笑)

中村： 頭痛持ちだから、ロキソニン飲むと治るんだよね、これが。 その時、いい感じ。 幸せを感じる。 あと、くそ暑い時にエアコンの入ったところに行ったら、幸せ。

田中： Mですかね。

中村： そうなのかな、そうなのかもしれない (笑)。

田中： 今一番欲しいものは何ですか。

中村： うん。安定した仕事だろうね。 ぼくらの仕事って、いつなくなっていくかわからないんだよね。 仕事がうまく行ってないと、いろんなところに影響しちゃって、たぶんうちに帰ってきても、こんなにニコニコしてられないと思うし。 そういった意味で安定した仕事があるからこそ、いろんなことが出来てくると思うんだよな。

田中： うん。

中村： こんなこと、考えたことないもんなー。

田中： みなさんにお答えいただいているんですけど、みんな違うんですよ。インタビューでいろいろお話を伺うんですけど、私、結構これ聞きたくてやってるみたいな（笑）。おもしろいんです。それから、

あなたの萌えポイントを教えてください。

中村： 前髪パツツン。あと、膝の裏側……ブーツを履いたときに後ろから見える膝の裏。

田中： そ、それはフェチ（笑）。

今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい。

中村： 記憶がないからなー。やっぱり、結婚と出産だね。それをひとつと考えれば、もうひとつは「松本人志」との出会いかな。

田中： え？

中村： ダウンタウンの松本人志さん。あの人さ、ちょっと考え方が変わってるというか。

田中： 確かに変わってますね。

中村： うん。その影響で、「人と同じことを考えとっちゃいかん」とかね。他人と同じことをしても売れてかない。人と違うことやらんといかんと思えてきたのは、たぶんあの人のおかげだろうね。

田中： 今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか。

中村： 惰性。

田中： 惰性……なんですか？

中村： うん、9割方、惰性だね。

田中： 後の1割は？

中村： 実はね、野望がないんだな、残念ながらね。夢はあるんだけど、ちっちゃい夢ばかりで、野望のようなものがないんだなあ。何だろうねえ、責任感もないしな……あ、酒か。

田中： お酒？

中村： お酒飲めるために、がんばってる。

田中： じゃあ、惰性と酒ですか？

中村： 惰性ってかいたら、ちょっと従業員がみると 「残念だな」 ってなっちゃうから。

田中： でも、「9割方、酒」 っていう方がヤバいんじゃないですか？（笑）

中村： そっか。 そうだな、やっぱり、家族の笑顔だな！

田中： うん。 でも、惰性っていうのも、書いときますけど。

中村： 爆笑

..... つづく ^^

田中： 今死んでも悔いはありませんか。

中村： うん。あのね、ほんとにね、死を怖がる人の気持ちが、わかんない。

田中： うん。

中村： 別に死んだっていいじゃないかって、思うね。家族のために生きてなきゃいかんけど。死に方にもいろいろあるよ。悪いやつに殺される、ハイジャックされて飛行機落ちちゃったら悔いが残るけど、今病気になって死ぬ分には、ガンを告知されても。死に対する恐怖はそうないんだけど、死に方次第では悔いはないね。

田中： 身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか。

中村： 何にもしないことをしたいね。

田中： 何にもしないことしたい？

中村： そう、何にもしないことをしに、パラオに行きたいね。そこで何もせず、ビーチに寝ることをしにパラオに行きたい。あつたかい国でずっと寝そべってたいよね。

田中： 世界に向けて演説をしたら、何を一番伝えたいですか。

中村： 平和だね。

田中： 平和。

中村： みんな、平和になろうよ。ラブ&ピースよ。

田中： 24時間テレビですね。

中村： もうちょっと時間があればおもしろいこと言えると思うんだけど……（笑）

田中： いえ、充分おもしろいです（笑）。

生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか。

中村： あたし？ 生まれ変わるってことをあんまり考えたことない。非科学的なことがきらいだから、死んだあとの世界とか興味がないというか（笑）。

田中： いいですよ。 無理に考えなくても（笑）。

中村： どっちでもいいかな。

田中： 人間以外のものに生まれ変われるとしたら、何がいいですか。

中村： そうだねえ。鮭。 鮭になるといいかな。「いくら」をたくさん食べれるでしょ？

田中： ん？ 自分で産んで、自分で食べる??

中村： うん、「いくら」たくさん食べたいもん。 チョウザメでもいいよ。

田中： キャビア？

中村： 自分で産んで食べれるでしょ？

田中： いや、食べないですよ（キッパリ）。

世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、何を消し去りますか。

中村： えー。 全然思い浮かばない。

田中： 自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、教えてください。

中村：

田中： 笑

中村： それは難しい質問だね。 あのね、YEG（商工会青年部）に入ってから、人から頼まれると、断れない。

田中： 自分のキャラを一言で言うなら？

中村： 今、すげー頭ん中フル回転なんだけどさ。 面倒くさがり屋なんだよね。

田中： 今一番大切に思っている事（もの）って、何ですか。

中村： 今はね、自分を、能力を高めようと思ってるんだよね。だから人と接すること、本は読まないけど勉強すること、それからいろんなところ行って、いろんな情報を仕入れること。

田中： 今日のこの時間で、何か気付いたことはあったら教えてください。

中村： 自分の性格とかね、いいところ悪いところ含めて、自分って何も考えてなかったなって思った。自分自身のことあんまり考えてないなってことに、気がついてないのか、気づこうとしていないのか、そんなことを思ったね。

たぶん今まで、誤魔化し誤魔化しでね、ちゃんと言わんといかん様なところも笑いで逃げたりしとったこともあったとおもうんだけど。今日はね、ちょっと真剣に考えちゃったけど、自分のこと全然理解してないなって思ったね。

田中： 私のコーチという仕事も少し特殊な仕事ではありますが、過去たくさんの方とお話をさせてもらった中で気づいたことのひとつが、自分にあまり焦点を向けてない人が多いということでした。そんな中、上手く行かないで壁を感じた時に、クライアントさんご自身が、「自分は何を考えてんのかな？」とか、「ああ、これを大事にしてたんだな」ってことに気づくと、クライアントさんご自身も迷いが少なくなるように感じます。コーチングなりインタビューなりを、自分の考え方を整理する時間ということで使っていらっしゃる方も多いようですね。

中村： ああ、うん、そうだね。整理されたね。

田中： 整理されました？

中村： された！ 質問に全然答えられないってことは、何も考えてないってことだもんね。普段考えないことでもあるのかもしれないけど。

田中： 質問ってというのは、アクセスするということですから、質問という形で投げかけられなければ、沈殿したままなんですよね。ほんと人間が一番おもしろいです。

中村： あ、僕の性格、人間嫌いだね。

田中： 人間嫌いなんですか？

中村： 人間嫌いっていうか、ひとりがすき。いや、ひとりの時間がほしい。もちろんひとりきりになったら、やだけど。

田中： わかります。

中村： それに結構人見知りするんだよね。何回か会った人でも、しゃべりかけにくいというか、気持ちがきれいな人じゃないと、あんまりしゃべらない。もともとあんまりしゃべるのは好きじゃないっていうか、苦痛に感じてるもんだから、だんだんそういうふうになって来てる。

田中： うん。

中村： ほんとイヤなんだわー。

田中： 何がイヤなんですか？

中村： しゃべるのが。

田中： じゃあ、今日はすごい苦痛を与えてしまいましたね。

中村： そうだよー。でも、Mだから（笑）。

田中： そっかぁ。 それもありってことで（笑）。 本当に今日はどうもありがとうございました！！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約400名のコーチが、

このCPCCを取得しており、世界中では4,500人のコーチがこの資格を持って活躍しています。

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）

』も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、

このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< ace-support@samba.ocn.ne.jp >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト＊ペディア 8 < 中村智 氏 >

<http://p.booklog.jp/book/78596>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/78596>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/78596>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ